



富山県内の 法人企業景気予測調査

(第89回 令和8年4—6月期調査)

【 調査時点：令和8年5月15日 】

令和8年6月11日

財務省 北陸財務局 富山財務事務所

連絡・お問合せ先

財務省 北陸財務局 富山財務事務所 財務課

富山市牛島新町11番7号

富山合同庁舎5階

T e l . (076) 432-5522

[調査の要領]

1. 調査の目的と根拠

この調査は、我が国経済活動の主要部分を占める企業活動を把握することにより、経済の現状及び今後の見通しに関する基礎資料を得ることを目的として、統計法に基づく一般統計調査として年4回実施しているものである。

2. 調査時点 令和8年5月15日

3. 調査対象期間

判断項目	8年4～6月期及び6月末見込み 8年7～9月期及び9月末見通し 8年10～12月期及び12月末見通し
計数項目	8年度実績見込み

4. 調査対象企業の選定

富山県内に所在する資本金1千万円以上の法人企業で、法人企業統計調査（四半期別）の標本企業から無作為抽出した。なお、毎年4月に抽出替えを行っている。

5. 調査方法

対象企業に調査票を郵送、またはオンラインでの入力を依頼し、自計記入を求める方法によった。

6. 集計の方法

日本標準産業分類に則した業種分類による単純集計を行った。

(調査対象企業数及び回収状況)

		全 規 模			
		大 企 業	中 堅 企 業	中 小 企 業	
全 産 業	調査企業数	128	39	22	67
	回答企業数	123	39	22	62
	回収率 %	96.1	100.0	100.0	92.5
製 造 業	調査企業数	50	17	10	23
	回答企業数	49	17	10	22
	回収率 %	98.0	100.0	100.0	95.7
非 製 造 業	調査企業数	78	22	12	44
	回答企業数	74	22	12	40
	回収率 %	94.9	100.0	100.0	90.9

(注) 本調査において、大企業とは資本金10億円以上、中堅企業とは資本金1億円以上10億円未満、中小企業とは資本金1千万円以上1億円未満の企業をいう。

(参 考)

【 B S I (Business Survey Index) の見方 】

B S I = (「上昇」等と回答した企業の構成比)
 - (「下降」等と回答した企業の構成比)

B S I が+の場合は「上昇」等が「下降」等より強く、景気等は上昇過程にあるものと判断され、-の場合はその逆を表す。

また、値の大きさはその強さを示している。

(例) 「景況判断」の場合

前期と比べて・「上昇」と回答した企業の構成比 …… 30.0%
 ・「不変」と回答した企業の構成比 …… 40.0%
 ・「下降」と回答した企業の構成比 …… 20.0%
 ・「不明」と回答した企業の構成比 …… 10.0%

B S I = 30.0 - 20.0 = 10.0%ポイント → 10.0%ポイントの「上昇」超

◆次回公表予定 (令和8年7-9月期調査)

令和8年9月11日 (金)

[調査の結果]

1. 景況判断

(1) 企業の景況・・・現状判断は「下降」超、先行き見通し（8年7～9月期）も「下降」超

[現状判断（8年4～6月期）]

企業の景況判断BSI（前期比「上昇」－「下降」社数構成比、原数値）をみると、全産業では「下降」超となっている。

業種別では、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。

規模別では、大企業、中堅企業、中小企業ともに「下降」超となっている。

[先行き見通し（8年7～9月期）]

全産業では「下降」超となる見通しとなっている。

業種別では、製造業、非製造業ともに「下降」超となる見通しとなっている。

[先行き見通し（8年10～12月期）]

全産業では「上昇」超となる見通しとなっている。

企業の景況判断BSI（原数値）

（前期比「上昇」－「下降」社数構成比）

（単位：%ポイント）

区 分	8年1～3月 前 回 調 査	8年4～6月 現 状 判 断	8年7～9月 見 通 し	8年10～12月 見 通 し
全 産 業	▲ 12.3	(1.5) ▲ 8.9	(0.8) ▲ 4.9	3.3
製 造 業	▲ 12.3	(0.0) ▲ 18.4	(1.8) ▲ 4.1	14.3
非 製 造 業	▲ 12.3	(2.7) ▲ 2.7	(0.0) ▲ 5.4	▲ 4.1
規 模 別				
大 企 業	▲ 2.6	(0.0) ▲ 2.6	(0.0) 10.3	12.8
中 堅 企 業	4.0	(0.0) ▲ 4.5	(0.0) ▲ 36.4	▲ 13.6
中 小 企 業	▲ 24.2	(3.0) ▲ 14.5	(1.5) ▲ 3.2	3.2

(注)8年4～6月、8年7～9月の()は前回調査時の見通し。

(2) 企業の景況判断の決定要因

8年4～6月期の景況判断の決定要因（1社10項目中、3項目以内回答）をみると、次のとおりとなっている。

企業の景況判断の決定要因

(上昇要因)

(単位：%)

区分	1位	%	2位	%	3位	%
全産業	国内需要(売上)	86.7	販売価格	46.7	海外需要(売上)	33.3
製造業	国内需要(売上)	85.7	販売価格	57.1	海外需要(売上)	42.9
非製造業	国内需要(売上)	87.5	販売価格 仕入価格 その他	37.5	—	—
規模別	大企業	販売価格	75.0	国内需要(売上) 海外需要(売上)	50.0	—
	中堅企業	国内需要(売上)	100.0	仕入価格	75.0	海外需要(売上) 販売価格
	中小企業	国内需要(売上)	100.0	販売価格 その他	28.6	—

(下降要因)

(単位：%)

区分	1位	%	2位	%	3位	%
全産業	国内需要(売上)	84.6	仕入価格	65.4	仕入以外のコスト	42.3
製造業	国内需要(売上)	87.5	仕入価格	68.8	仕入以外のコスト	31.3
非製造業	国内需要(売上)	80.0	仕入価格 仕入以外のコスト	60.0	—	—
規模別	大企業	国内需要(売上)	100.0	仕入価格	60.0	海外需要(売上) 仕入以外のコスト
	中堅企業	国内需要(売上)	100.0	仕入価格	60.0	仕入以外のコスト
	中小企業	国内需要(売上)	75.0	仕入価格	68.8	仕入以外のコスト

(注1) 「金融業、保険業」は調査対象外。

(注2) 回答社数構成比である。

選択項目

1 国内需要(売上)	5 仕入以外のコスト	9 税制・会計制度等
2 海外需要(売上)	6 資金繰り・資金調達	10 その他
3 販売価格	7 株式・不動産等の資産価格	
4 仕入価格	8 為替レート	

2. 売上高（除く「電気・ガス・水道業」）・・・8年度は増収見込み

8年度は、製造業は8.7%の増収見込み、非製造業は4.2%の増収見込み、全産業では7.3%の増収見込みとなっている。

規模別では、大企業、中堅企業、中小企業ともに増収見込みとなっている。

(前年度比増減率、単位：%)

		全産業		
			製造業	非製造業
売上高	8年度	7.3	8.7	4.2

		大企業	中堅企業	中小企業
規模別		6.2	13.1	0.2

(注1) 「金融業、保険業」は調査対象外。

3. 経常利益（除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」）

・・・8年度は減益見込み

8年度は、製造業は3.2%の減益見込み、非製造業は9.2%の減益見込み、全産業では4.3%の減益見込みとなっている。

規模別では、大企業は減益見込み、中堅企業、中小企業は増益見込みとなっている。

(前年度比増減率、単位：%)

		全産業		
			製造業	非製造業
経常利益	8年度	▲4.3	▲3.2	▲9.2

		大企業	中堅企業	中小企業
規模別		▲6.8	15.9	5.4

4. 設備投資（除く「電気・ガス・水道業」）・・・8年度は増加見込み

8年度は、製造業は12.4%の増加見込み、非製造業は20.6%の増加見込み、全産業では17.0%の増加見込みとなっている。

規模別では、大企業、中堅企業は増加見込み、中小企業は減少見込みとなっている。

(前年度比増減率、単位：%)

		全産業		
			製造業	非製造業
設備投資	8年度	17.0	12.4	20.6

		大企業	中堅企業	中小企業
規模別		18.8	9.0	▲ 5.3

(注1) ソフトウェア投資額を含み、土地購入額は含まない。

5. 生産・販売などのための設備・・・現状判断は「不足」超、先行き見通し（8年9月末）も「不足」超

8年6月末時点の設備判断BSI（期末判断「不足」－「過大」社数構成比、原数値）をみると、全産業では「不足」超となっている。

業種別では、製造業は「不足」と「過大」が均衡、非製造業は「不足」超となっている。

規模別では、大企業、中堅企業、中小企業ともに「不足」超となっている。

先行きをみると、8年9月末時点は、全産業では「不足」超の見通しとなっている。

業種別では、製造業は「不足」と「過大」が均衡、非製造業は「不足」超の見通しとなっている。

8年12月末時点は、全産業では「不足」超の見通しとなっている。

生産・販売などのための設備判断BSI（原数値）

(期末判断「不足」－「過大」社数構成比)

(単位：%ポイント)

区分		8年3月末 前回調査	8年6月末 現状判断	8年9月末 見通し	8年12月末 見通し
全産業		8.9	(9.8) 8.0	(8.9) 8.0	11.0
	製造業	6.3	(6.3) 0.0	(4.2) 0.0	7.0
	非製造業	10.9	(12.5) 14.0	(12.5) 14.0	14.0
規模別	大企業	8.3	(8.3) 8.3	(5.6) 5.6	8.3
	中堅企業	14.3	(19.0) 11.1	(14.3) 11.1	5.6
	中小企業	7.3	(7.3) 6.5	(9.1) 8.7	15.2

(注)8年6月末、8年9月末の()は前回調査時の見通し。

6. 今年度における設備投資のスタンス

今年度における設備投資のスタンス（1社10項目中、3項目以内回答）をみると、次のとおりとなっている。

今年度における設備投資のスタンス

（単位：％）

区 分	1位	％	2位	％	3位	％	
全産業	維持更新	60.2	省力化合理化	56.1	生産（販売）能力の拡大	42.9	
製造業	省力化合理化	67.4	—	—	生産（販売）能力の拡大	53.5	
	維持更新						
非製造業	維持更新	54.5	省力化合理化	47.3	情報化への対応	43.6	
規模別	大企業	維持更新	66.7	省力化合理化	55.6	生産（販売）能力の拡大	36.1
	中堅企業	維持更新	77.8	生産（販売）能力の拡大	55.6	—	—
				省力化合理化			
中小企業	省力化合理化	56.8	維持更新	47.7	生産（販売）能力の拡大 製（商）品・サービスの質的向上	43.2	

（注）回答社数構成比である。

選択項目

1 生産（販売）能力の拡大	6 海外投資
2 製（商）品・サービスの質的向上	7 研究開発
3 情報化への対応	8 新事業への進出
4 省力化合理化	9 維持更新
5 環境対策	10 その他

7. 今年度における資金調達方法

今年度における資金調達方法（1社10項目中、3項目以内回答）をみると、次のとおりとなっている。

今年度における資金調達方法 (単位：%)

区分	1位	%	2位	%	3位	%	
全産業	民間金融機関	73.7	内部資金	52.6	公的機関	29.5	
製造業	民間金融機関	76.7	内部資金	51.2	公的機関 リース	32.6	
非製造業	民間金融機関	71.2	内部資金	53.8	公的機関	26.9	
規模別	大企業	内部資金	60.0	民間金融機関	56.7	リース	26.7
	中堅企業	民間金融機関	83.3	内部資金	44.4	公的機関	27.8
	中小企業	民間金融機関	80.9	内部資金	51.1	公的機関	46.8

(注1) 「金融業、保険業」は調査対象外。

(注2) 回答社数構成比である。

選択項目

1 民間金融機関	6 企業間信用
2 公的機関	7 資産の売却
3 株式の発行	8 資産の流動化・証券化
4 社債の発行	9 内部資金
5 リース	10 その他

8. 従業員数・・・現状判断は「不足気味」超、先行きも「不足気味」超の見通し

8年6月末時点の従業員数判断BSI（期末判断「不足気味」－「過剰気味」社数構成比、原数値）をみると、全産業では「不足気味」超となっている。

業種別では、製造業、非製造業ともに「不足気味」超となっている。

規模別では、大企業、中堅企業、中小企業ともに「不足気味」超となっている。

先行きをみると、8年9月末時点は、全産業では「不足気味」超の見通しとなっている。

業種別では、製造業、非製造業ともに「不足気味」超の見通しとなっている。

8年12月末時点は、全産業では「不足気味」超の見通しとなっている。

従業員数判断BSI（原数値）

（期末判断「不足気味」－「過剰気味」社数構成比）

（単位：％ポイント）

区 分	8年3月末 前回調査	8年6月末 現状判断	8年9月末 見通し	8年12月末 見通し
全 産 業	36.8	(36.0) 29.8	(30.7) 29.8	26.0
製 造 業	27.1	(31.3) 25.6	(22.9) 25.6	23.3
非製造業	43.9	(39.4) 32.8	(36.4) 32.8	27.9
規 模 別				
大 企 業	31.6	(28.9) 31.6	(23.7) 31.6	23.7
中 堅 企 業	38.1	(38.1) 27.8	(38.1) 22.2	16.7
中 小 企 業	40.0	(40.0) 29.2	(32.7) 31.3	31.3

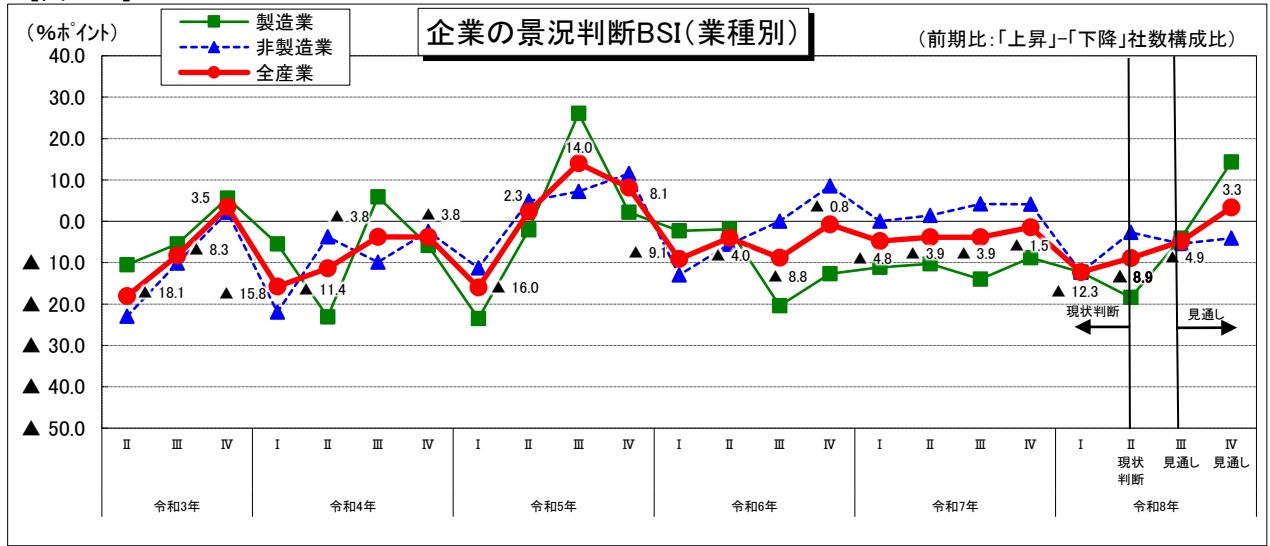
（注）8年6月末、8年9月末の（ ）は前回調査時の見通し。

富山県内の法人企業景気予測調査 (第89回 令和8年4-6月期調査)

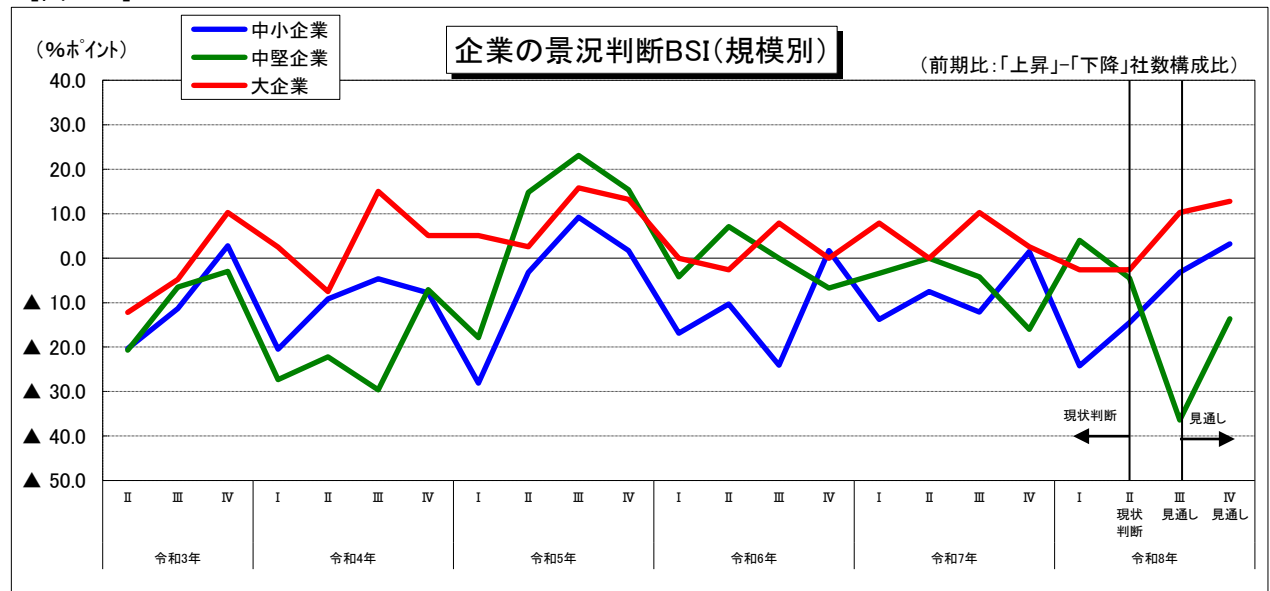
資料

【企業の景況感】

[図 1]



[図 2]



【従業員数】

[図 3]

